公益社団法人

日本演劇興行協会

会報　No.58

2020　AUTUMN

画像提供：松竹㈱・㈱歌舞伎座

Japan Association of Major Theaters

歌舞伎座

一八八九年（明治二二年）木挽町の地に誕生。
明治、大正、昭和、平成にわたり古典演劇としての洗練を極めると共に時代の息吹を取り入れた舞台を上演。幾度もの災禍を乗り越え復興を果たす。
二〇一三年（平成二五年）四月、第五期となる歌舞伎座が開場。
令和の時代に新たなる賑わいを寄せている。

目　次

会長インタビュー　安孫子　正……2
二〇一九年度　助成金受賞者と授賞理由……6
二〇一九年度　海外研修報告……8
二〇二〇年度　報告事項　総会・理事会議事録……14
公益社団法人日本演劇興行協会名簿……18

日本演劇興行協会 会長インタビュー

演劇界一丸となり、演劇を愛する方々とこの危機を乗り越えていきたい。

安孫子 正

令和二年六月、日本演劇興行協会の会長に、松竹株式会社副社長の安孫子正が就任いたしました。協会員の皆さまへのご紹介も兼ねてにその人物像を知っていただくべく、ロング・インタビューを敢行。演劇の原体験からコロナ禍の演劇界への想いまでを語り尽くします。

歌舞伎尽くしの学生時代

――演劇との出会いからお話しいただけますでしょうか。

私には一回り上の兄がいたり、父は教師で隣に住む祖母は歌舞伎が大好きだったり、日常の生活に芝居の話題が出てくるような、周りに大人の多い世界で育ったんです。中学一年の時、演劇部に誘われ、演劇部の顧問の先生が非常に芝居に造形の深い方でとても影響を受けました。歌舞伎の研究や評論をされていて、昭和三十七年、中学二年の時に「市川染五郎」という本を出された。当時二十歳の六代目市川染五郎(現・二代目松本白鸚)の俳優論と代々の染五郎の人物像を評判記から掘り起こしたものでした。

私は石川啄木が大好きだったのですが、先生は北海道出身で啄木にもとても詳しくて、昭和三十七年の秋に染五郎さんが啄木を演じる『悲しき玩具』(菊田一夫作、芸術座)という舞台があることを教えてくれて。それで父親にねだって初めて芝居を観に行きました。染五郎さんの相手役の女優さんたちが素晴らしくて、啄木の奥さんが森光子さん、啄木が恋い焦がれる女性に八千草薫さん。圧巻は芸者の小奴役の浜木綿子さんで、そのうまさにびっくりしたものです。翌年浜さんは『悲しき玩具』の演技でテアトロン賞を獲られました。自分の観る眼は間違いないなんて、生意気に思ったりしていました(笑)。

――それ以降、舞台を観に行くようになられたんですね。

昭和三十七年は、歌舞伎の世界では春に十一代目市川団十郎の襲名があった年で、その年の暮れから「演劇界」という歌舞伎の雑誌も読むようになって。翌三十八年二月、新聞の劇評に二月興行のことが面白く書かれていて、初めて歌舞伎座に行きました。中学三年の終わりです。二代目尾上松緑さん、十三代目片岡仁左衛門さん、十七代目中村勘三郎さん、七代目尾上梅幸さん、八代目坂東三津五郎さんと錚々たる方々が出演していて、歌舞伎ってこんなに面白いのかと衝撃を受けたんです。新橋演舞場で上演していた十一代目団十郎さんと先代水谷八重子さんの『信長とお市の方』も観る機会を得て芝居にのめり込むようになりました。

翌三月は三代目實川延若さんの襲名興行でまた歌舞伎座へ。そこで、初代市川猿翁さんが猿之助として出演した最後の舞台『修禅寺物語』で演じた夜叉王に魅入られてしまった。猿翁さんの舞台はそれしか観ることができませんでしたが、以降、毎月歌舞伎座に通うようになりました。観るものすべて吸収する、そんな時代でした。

――そうすると学生時代は歌舞伎漬けの日々ですね。

高校時代は歌舞伎だけではなく、恩師から教えていただいたおかげで、新派や新喜劇、新劇も観ることになりました。当時は新劇が盛んな時代で、民藝なら滝沢修さんの『セールスマンの死』、『アンネの日記』はアンネ役が樫山文枝さんでした。文学座は杉村春子さんの『女の一生』、東山千栄子さんがラネーフスカヤ夫人を演じた俳優座の『桜の園』。山本安英さんの『夕鶴』も観ることができました。文楽を観始めたのは少々遅くて、昭和四十一年に国立劇場で文楽が定期公演をするようになってからでしたね。

今思えば、若い頃に歌舞伎の見事な舞台を観せてもらい、新劇もどこまで理解できていたかはわからないけれど、戦後を代表する数々の名舞台を味わうことが出来ました。そうやって知らず知らずのうちに自分の演劇に対するひとつの基準、原点が出来上がりました。

歌舞伎の興行を支える側に

――松竹に入社されて歌舞伎の製作に携われるまでにはどのような経緯がありましたか。

大学では、将来歌舞伎に携わる仕事がしたくて演劇を専攻しました。卒業後は歌舞伎の研究・評論をしていきたいと考えていたのですが、なかなか叶わずにいました。すると、そんなに歌舞伎が好きならと、松竹を紹介しましょうかとお話をいただいたんです。歌舞伎は将来どうなるのか相当囁かれていた時期でもあり、研究や評論も歌舞伎の興行があってこそ。それなら、歌舞伎の興行に何らかの形で関わっていくことが自分の仕事になるかもしれないと思い、お話を受けることにしました。

とはいえそう簡単に歌舞伎の仕事ができるわけではなく、アルバイトで一年、社員になってからは劇場勤務や営業など様々な仕事をして、昭和五十三年、三十歳の時に歌舞伎座の宣伝部に異動になりました。昭和五十八年十月の異動で、本社の演劇製作の歌舞伎のプロデューサーになり、以来、歌舞伎の製作の仕事をさせていただくようになりました。

――お仕事をされていく中で印象に深く残っていることを挙げていただけますでしょうか。

歌舞伎座の宣伝をしていた頃は、古典を上演してもなかなか興行的に厳しく、そんな中、市川猿之助(現二代目市川猿翁)が手がけていた復活狂言で、昭和五十四年四月の明治座『伊達の十役』が大当たりしました。七月の歌舞伎座ですぐに『伊達の十役』の再演が決まり、さらに大当たりして、猿之助の復活狂言が一躍注目を集めるようになった。お客様の反応も、それ以前と以後では勢いが全然違ってきたのを肌で感じました。そして興行の不思議な力を眼の当たりに実感することが出来ました。

その後、昭和六十年には十二代目市川団十郎さんの襲名が大きく盛り上がり、同年には「こんぴら歌舞伎」を琴平の金丸座で初開催致しました。中村吉右衛門さん、中村勘九郎(十八代目中村勘三郎)さん、澤村藤十郎さんがテレビ番組で金丸座を訪れたことがきっかけでした。続く六十一年には新橋演舞場で二代目猿翁さんがスーパー歌舞伎『ヤマトタケル』を上演し、これも大当たりしました。

古典を大事にすると同時に復活狂言や金丸座のような場所で歌舞伎の原点を見直す。そして口語体を使ったスーパー歌舞伎で新時代を切り開いていく。そういったすべてが相まって、歌舞伎をとりまく状況が大きく動いていったんです。私が宣伝部にいた頃は年間半分しか歌舞伎公演ができなかったのが、平成元年九月から今にいたるまで、改築時期を除いて毎月歌舞伎公演を歌舞伎座で行なえるようになりました。苦労した時期から製作興行に携わってこられたことを本当にありがたく思っています。

すべてはご縁の積み重ねから

――転機となった出来事はございますか。

話は中学三年の三月、初代猿翁さんの『修禅寺物語』の夜叉王に魅入られた頃に遡ります。同年五月、猿翁さんは猿之助の名をお孫さん(現・二代目猿翁)に譲り、六月十二日にお亡くなりになりました。あの方が亡くなったんだ……と驚いて新聞を見ると、「木曜は近親通夜、金曜は一般通夜」と書いてあり、一般通夜なら自分も行けるのかなと、赤坂の猿翁さんのお宅へうかがいました。当時猿之助だった二代目猿翁さんはじめご家族の皆さんがいらっしゃって、学校帰りの見も知らぬ少年を受け入れてくださったんです。「あなたのような方が来てくれることをおじいちゃんは一番喜んでいる」と言って、猿翁さんの死に顔を見せてくださった。それは素晴らしいお顔でした。歌舞伎を見始めて間もない私にとってはすごく大きな出来事で、その体験がなかったらここまで歌舞伎にのめりこむことはなかったのではないかと思います。

――それはすごい体験ですね。

それがご縁で、時々二代目猿翁さんの楽屋にうかがったり、小冊子やプロマイドの裏に手紙を書いて送ってくださるようになって。「歌舞伎は博物館行きでいいのか」という提言の書かれたリーフレットを、「いいから読みなさい」って送ってくださったこともありました。今振り返ってみると、猿翁さんはあの頃からそういうことを思い、復活狂言そしてスーパー歌舞伎へと繋がっていったのだ、自分もその生き証人の一人なのだなと思うことがあります。ご縁の積み重ねで、多くの俳優さん方とありがたいことに何代にもわたってお付き合いをさせていただいています。脈々と受け継がれる伝統芸能の世界の中に自分が身を置くことができていることはとても幸せだと思います。

――その後、歌舞伎以外の舞台にも携われていきますね。

その中でも印象的だったのは「滝沢演舞場」で、平成十八年の第一回から担当させていただきました。ジャニー喜多川さんからは多くの刺激をいただきましたし、ジャニーズと歌舞伎の公演は見た目は違っても、支える人々の気持ちは一緒だという思いを強くしました。素晴らしい方々が演劇の世界にはいて、歌舞伎もミュージカルもストレートプレイも、いろいろなジャンルがあるからこそ面白いんだ、と。お客様に望まれるものをどのような表現方法を使って作っていくのか、幅広いところで考えていくようになりました。

コロナ禍の演劇界と今後の展開

――今年はコロナ禍で想像のつかない状況が続いています。演劇界の現状をどのように見ていますか。

今回は自分たちの意思だけではどうしようもないことになりましたし、本当に我々は何をしたらいいのか思いあぐねました。その中で、いろんな問題はあるにしても、生のエンターテイメントの魅力がさらに深まったと感じます。

新型コロナウイルスをとりまく状況は、一ヶ月目と二ヶ月目、そして今とでは全く様相が違っています。保健所のチラシに「コロナは怖いけれど恐れてはけない。けれどあなどってはいけない」

と書いてあるのですが、この言葉からは、どうあってもその状況に応じた公演の形を考えていくヒントがもらえたような気がしています。

――夏以降、制限つきで劇場が再開され始めています。

歌舞伎座に関していうと、お客様、出演者、関係者、従業員のリスク排除を最優先に、八月から四部制公演としました。出演者もスタッフも全部総入れ替えで、密を避ける、幕間をつくらない、換気をよくする、客席は四五パーセントの稼働です。四部制なんて今まで考えたことがありませんでしたが、これも一つの興行の形だなと。演劇は配信もさかんに行われるようになりました。配信で喜んでくださるお客様がいることがわかり一挙に進んでいった。辛いことは沢山ありますが、いろいろな状況をどう克服していくかという考え方を学べたことは将来を考える上でよかったことだと思います。

そして今回なによりありがたいと思ったのは、演劇界がひとつになったこと。日本演劇興行協会をはじめいろいろな団体はありますが、演劇界がまとまって何かをするということはこれまで皆無でした。コロナ危機を通して、「緊急事態舞台芸術ネットワーク」が形成され、演劇界が一丸となって様々な働きかけを行っています。これから演劇というものをそれぞれの立場でどのように続けていくのかの、足がかりができたと思っています。

今まで、演劇界は官民が協力することはこれまであまりありませんでしたから、今回のJ'LOD liveの助成金は非常にありがたいことだと思っています。これを契機に、今後どのような危機がきたとしても、事前の備えでカバーできるようにしていくこと、そのために多方面とのコミュニケーションをとり続けていくことが大切だと考えています。

――危機を通してさまざな可能性も生まれてきているのですね。

そう思います。また、大劇場は個人のお客様と同時に団体のお客様のことを考えていかなければなりません。歌舞伎座で言えば、一興行で十万人近い人数を動員するため、団体のお客様にしめる割合が多かった。けれど今回のコロナ禍で団体のお客様が総崩れしてしまった。そんな八、九月公演の中心になってくださったのはコアのお客様でした。そういったコアのお客様をどう広げていくかは、大きな課題だと思います。これまでもたとえば劇団四季さんは以前からミュージカル普及のための活動を行っていますし、松竹でも小学生のための歌舞伎鑑賞教室を開催してきました。お客様を育てるのは長い時間のかかることですが、それがいざという時に支えてくださる大きな力になるということを改めて感じ、今後もそういった機会を大事にしていかなければならないと思います。

――十月以降は客席数の制限も解除され、演劇界はまた新たな展開を迎えています。

当初では考えられなかった安全対策をしながら、各団体が上演にこぎつけていますね。客席数の制限は緩和されましたが、来年以降も一歩ずつ一歩ずつ改善しながら上演し続けられるよう、慎重な運営を続けていくことが重要だと思います。劇場再開後はいろいろ不便なお願いをしているにも関わらず、お客様お一人おひとりが誠実に行動してくださり、本当に頭の下がる思いです。演劇人同士の絆を深め、お客様との絆を確かに感じることのできたこの期間を無駄にすることなく、演劇を愛する方々とともにこの危機を乗り越えていくことができたらと思います。

（取材・文／高橋涼子）

「プロフィール」
あびこ・ただし／日本大学大学院芸術学修士課程修了。昭和五十年五月松竹株式会社入社。演劇製作室長、演劇部長、取締役就任・演劇本部演劇製作部門担当を経て、平成十五年五月常務取締役就任、十六年十一月専務取締役就任、十八年五月演劇本部長就任、二十六年五月取締役副社長、令和元年五月代表取締役副社長・演劇本部長（現任）。ほか、国際演劇協会（ITI）副会長、日本演劇協会専務理事などを務める。

二〇一九年度　助成金受賞者と授賞理由

(1)演劇関係者への助成金交付

演劇興行および演劇製作に寄与した団体または個人の功績をたたえ、表彰する助成金交付は、内外の推薦を受け、常務理事における審議の結果、本年度は下記の三氏および一団体が承認されました。表彰式は二〇二〇年二月二十六日(水)午後二時から、東京プリンスホテルに理事、監事、委員出席のもと、各表彰者に助成金と賞状を贈呈いたしました。

①勝柴　次朗　殿

一九六八年日生劇場スタッフとして照明操作に携わって以来半世紀以上に亘り舞台照明の世界で活躍してこられました。

プランナーとしてオペラ、演劇、ミュージカル、コンサート、レビューとジャンルを問わず舞台照明のあらゆる分野で数々の作品を手掛け、それぞれの作品が高い評価を得てこられました。

現在は日本照明家協会会長として幅広く後進の育成や業界の発展にも寄与しながら、日本の舞台照明の第一人者として変わらぬ熱意をもって新たな照明プランを開拓し続けておられます。

ここにこれまでの功績を讃え、今後一層の活躍を願っております。

②山本　浩一　殿

音響設計の基礎を劇団フォーリーズの公演で学び、その後音響デザイナーとしてのキャリアをスタートしました。

ミュージカル「ＲＥＮＴ」、栗山民也演出「ゲットー」等の作品にはじまり、最近では「ピアフ」「ジャージー・ボーイズ」「天使にラブ・ソングを」等あなたの活躍は枚挙に暇がありません。

緻密な計算によって練り上げられ舞台と客席が一体となるあなたのサウンドデザインは、演劇界になくてはならない存在となりました。

ここにこれまでの長年の功績を讃え、今後より一層の活躍を願っております。

③島　健　殿

作・編曲家として、また舞台公演の音楽監督として類まれなる手腕を発揮して多くの観客を魅了してきました。作曲を手掛けたオリジナルミュージカル「少年フレディの物語」は大好評を博し、音楽監督を務めた「ＤｏｗｎＴｏｗｎ Ｆｏｌｌｉｅｓ」は二〇〇二年の初演から十一回の上演を重ねています。

近年ではミュージカル「ジャージー・ボーイズ」「キンキーブーツ」「フランケンシュタイン」等の作品がお客様からの高い評価を得て、再演を重ねる名作となりました。

ここにこれまでの長年の功績を讃え、今後より一層の活躍を願っております。

④株式会社　宮本卯之助商店　殿

文久元年の創業以来、和太鼓の製造を営みとするなかで、演劇、芸能、雅楽における幅広い楽器の製造にも携わり、永年培われてきた確かな技術と伝統芸能に対する真摯な姿勢により、その楽器と音色は演奏者をはじめ携わる関係者の信頼を得てきました。

特に歌舞伎黒御簾音楽の楽器製造、修理の技術の継承は歌舞伎上演に不可欠なものとなっています。

その大きな貢献をされてこられた事は高く評価されるところであります。

ここに長きにわたるその功績を高く評価し、今後より一層の活躍を願っております。

二〇一九年度　海外研修報告

シアタークリエ　演劇部プロデューサー室
馬場千晃

総括

二〇一九年七月十二日からニューヨークのブロードウェイに滞在、十一本観劇させていただき、オンからオフブロードウェイ作品まで幅広く観劇することが出来た。トニー賞授賞式後ということもあり、ノミネートや受賞した作品は特に盛況で、観光客の割合も高かった印象。

各作品の詳細は後述するが、全体としてはチケットの売り方、価格設定、街そのものの構造、宣伝方法、お客様の層、お客様の反応、キャスト・スタッフ・オケの就労、劇場の運営、舞台袖やオケピの構造など非常に勉強になった。

一方、ブロードウェイが必ずしも正解ということではなく、逆に日本の演劇界の長所を知る機会にもなったように思う。ブロードウェイの長所と日本で上演するからこその長所の両方を取り入れていくことを強く意識する機会となった。

作品ごとについて

①HUDSON THEATRE（ハドソンシアター）／「BURN THIS（バーンディス）」（ストレートプレイ）

二〇一七年にブロードウェイ劇場として再開したハドソンシアターの3作目となる本作。『スター・ウォーズ』シリーズなどで世界的知名度を誇り、本作でトニー賞主演男優賞演劇部門にノミネートされたAdam Driver主演。その効果もあってか、Adam Driverを観に来ているお客様が多かったようにも思う。

また、Lanford Wilsonの一九八七年の戯曲のリバイバルとあって、Lanford Wilsonファン、あるいは初演を観劇されたと思われる高めの年齢層のお客様も多々見受けられた。

セット転換はなく、終始一つの部屋で巻き起こる。それだけに会話劇としてセリフ回しが機知に富み、シリアスなヒューマンドラマかと思って観に行くと、意外にも笑える要素が多いことに驚かされた。

②ATLANTIC THEATRE（アトランティックシアター）／「THE SECRET LIFE OF BEETS」（シークレットライフオブビーツ）（ミュージカル）

アトランティックシアターはオフブロードウェイの非営利劇場であり、演劇人に表現の場を提供するだけでなく、ニューヨーク大学などとの連携などによって演劇人を育成することにも取り組んでいる。非営利とはいえ、パブリシティやチケット販売などは精力的に運営されていると感じた。チケットを公式HPで購入したが、非常に見やすいレイアウトで、外国人でも買いやすい工夫をされていた。

今回観劇した「THE SECRET LIFE OF BEETS」は邦題「リリィ、はちみつ色の秘密」という映画の舞台化であり、ストーリー的には比較的映画に忠実に作られていた。一方で、楽曲のインパクトとキャストの圧倒的歌唱力に裏付けされたエンターテインメント性に富み、ミュージカル化として非常に意義のある、映画からミュージカル化した作品の中でも成功している一例だと思った。

③NEW WORLD STAGES 3（ニューワールドステージズ）／「ROCK OF AGES」（ロックオブエイジス）（ミュージカル）

ニューワールドステージズは、5つのステージを有する劇場複合施設で、ステージ3は、四九九席を有しており、この施設の中では最大席数のステージの一つ。このシネコンのような構造は、私自身、別の作品（後述⑤）を観に劇場に行って「お！『ROCK OF AGES』も観るか！」と当日券を買ったので、次のお客様獲得につながることに一役買っている。劇場が密集していてチケッツが存在するブロードウェイでこそ本領発揮していない部分もあるかもしれないが、お客様の観劇体験を習慣化に導く仕組みとしては有意義に思った。

作品そのものに関しては、おバカで下品で楽しい、の一言。耳なじみのあるナンバーで彩られているということもあるが、例えば開演前から客席でカクテルを販売したりなど客席を一体化、お祭り化する工夫があり、観劇中も客席がライヴ会場のような熱気に覆われていた。

④IMPERIAL THEATRE（インペリアルシアター）／「AIN'T TOO PROUD」（エインツートゥープラウド）（ミュージカル）

実在したアメリカのソウル・コーラス・グループThe Temptationsを題材にしたジュークボックスミュージカル。トニー賞では最優秀振付賞を受賞した。振付の素晴らしさはもちろ

んのこと、既成曲を非常に有機的に構成している点にも感銘を受けた。楽曲構成のおかげで、既定路線がない実話ものの難しさをうまくまとめ上げていた。歌と踊りで魅せることに特化した分、美術はシンプルな色味でまとめており、それも良かった。

The Temptationsは一九六〇～一九七〇年代のグループであり、シニアのお客様も多く見受けられ、その中には上演中につい楽曲を口ずさんでしまうお客様が周囲に二名ほどいらっしゃり、良くも悪くも人を突き動かす力のある作品だった。

⑤ SHUBERT THEATRE（シューベルト シアター）／「TO KILL A MOCKINGBIRD（トゥー キル アモッキングバード）」（ストレートプレイ）

映画だと邦題「アラバマ物語」として有名な本作。元々映画のファンだったため、印象的な裁判シーンは演劇では下手をすると間延びしたシーンになるのでは、と懸念していたが、そんな懸念はすぐに吹っ飛ぶほどに非常に良くできていた。セリフや構成の巧みさもあるが、キャスト陣の熱量にどんどん引き込まれていくような感覚。

とはいえ、芝居の尺自体は長く、非常に偏差値の高い作品であるのは確かではあるので、さすがに子供のお客様はまばらにしか見受けられなかった。

余談だが、街を走る消防車の音が客席にも漏れ聞こえてきて、劇場の壁の薄さを感じた。現地の演劇スタッフにお話を聞いたところ、ブロードウェイの劇場は古い建物も多く、珍しくないとのこと。

⑥ NEW WORLD STAGES 4（ニューワールド ステージズ）／「THE PLAY THAT GOES WRONG（ザット ゴーズ ワロング）」（ストレートプレイ）

初演は、オールド・レッド・ライオン・シアターで、二〇一五年にローレンス・オリヴィエ賞にて新作コメディ賞を受賞。二〇一七年にはブロードウェイ版がトニー賞において演劇装置デザイン賞を受賞。この演劇装置デザイン賞を受賞したのも頷けるのが、上演中、セットのドアが開かない、柱が壁から倒れてくる、床が抜けるなど次々とトラブルが発生するのが笑いの肝になっているから。

そのほかにも、出演者が台詞を忘れ、出番を忘れ、出番でないのに押し出され、舞台上で気絶し、代役は舞台上から去ることを拒否するなど「すべてが間違った面白い方向へと進んでいく」。いずれもスタッフとキャストの緻

二〇一九年七月にオフブロードウェイのグリニッチハウスシアターでオープンしたコメディミュージカル。「Be More Chill」の作詞作曲を手がけ、トニー賞にノミネートされたJoe Icons、ベテラン女優のAnnie Golden（六七）、「The Book of Mormon」のアソシエイトディレクターを務めたJennifer Weinerなどなど数々の名ミュージカルのキャストスタッフが集結。

アメリカで知名度のあるベテラン女優のAnnie Golden自身をそのまま主人公にし、彼女のハッチャけた演技を作品の売りにしており、レビューを読むと彼女の体当たり演技に期待してチケットを購入する人が多い。オフブロード作品ながら、ブロードウェイのいたるところに広告が貼り出され、注目を集めていた。「空手」など日本的要素も多く盛り込まれているが、欧米人の思う「アジア」であり、日本人の私にとっては違和感があり、それが面白くもあった。

⑧ WALTER KERR THEATRE（ウォルター・カー・シアター）／「HADESTOWN（ヘイデスタウン）」（ミュージカル）

二〇一六年五月にニューヨークシアターワークショップでオフブロードウェイを初演し、その後、二〇一九年三月にブロードウェイでプレビューが初演された。批評家から高く評価され、数多くの賞とノミネートを受けたが、特に第七十三回トニー賞では合計十四のノミネートし、ベストミュージカルとベストオリジナルスコアを含む八つを獲得。

Anaïs Mitchellが音楽、歌詞、脚本を担当し、古代ギリシャ神話元にしたシンプルなストーリーに複雑かつ豪華な演出を盛り込んでエンターテインメントとして昇華している。その中でも特に照明が素晴らしかった。

トニー賞受賞後ということもあり、客層は国籍、性別、年齢様々入り乱れていた。

密な計算と、息が合っているからこそ為せる技であり、一朝一夕ではできないだろうと感服した。

客席は、アメリカの修学旅行生も多く観劇しており、若々しく大きな笑いに包まれていた。

⑦ GREENWICH HOUSE THEATRE（グリニッジ・ハウス・シアター）／「BROADWAY BOUNTY HUNTER（ブロードウェイ・バウンティ・ハンター）」（ミュージカル）

⑨ WINTER GARDEN THEATRE（ウィンターガーデンシアター）／「BEETLEJUICE」（ビートルジュース）（ミュージカル）

アメリカでは一九八八年に公開され、第六十一回アカデミー賞にてメイクアップ賞を受賞したティム・バートン監督による同名のホラーコメディ映画を元にした作品。二〇一九年四月にウィンターガーデンシアターでブロードウェイにオープンする前に、二〇一八年十月にワシントンの国立劇場で初演された。主演のAlex Brightmanは「School of Jackson」が自分自身を主人公に反映して描いている本作。その根底には、黒人であることやゲイであることが大きく関係しており、ストーリーやセリフ自体は難しくはないが、アメリカで黒人の方やLGBTの方が受ける扱いについて、恥ずかしながら実感として理解しきれないところがあり、「ストーリーをしっかりした理解した」とは言い切れない点も多い。また、自分自身も有色人種であることを考えると、ブラックジョークとして素直に笑って良いのかと戸惑うところもあった。しかしながら、客席には様々な人種が見受けられ、非常に好意的に取られている印象。

音楽もブラックミュージック的なソウルフルなナンバーが多く、前述の「AIN'T TOO PROUD」と同じ高揚感があった。

⑪ MARQUIS THEATRE（マーキスシアター）／「TOOTSIE」（トッツィー）（ミュージカル）

マリオットマーキースホテルの建物内にある比較的新しい劇場。観劇の他にもELECTRONIC MUSIC DESIGNで「TOOTSIE」に携わられているヒロ・イイダさんのつてでバックステージ見学をさせていただいた。ほぼすべての装置がオートメーション化されているほか、日本よりもはるかに狭い舞台袖を最大活用するために様々な道具がつられて収納されているなど工夫をされていた。

Rock」でも著名で、本作にてトニー賞主演男優賞ノミネート。

ティム・バートンの世界観、色彩を踏襲しつつ、演劇だからこそのアミューズメント感が非常に高く、終始楽しめた。そのためか客席にはお子さんが多く、家族連れがたくさん観劇していた印象。宣伝がホラーとしてではなく、コメディとしても成功している証拠だと思う。

主演とヒロインのキャラクター設定が非常に素晴らしく、リピートしたくなる作品。

⑩ PLAYWRIGHTS HORIZONS（プレイライツホライズンズ）MAINSTAGE（メインステージ）／「A STARRANGE LOOP」（ストレンジループ）（ミュージカル）

劇作家で作曲家でもあるMichael R.

また、オケピの中にモニタースピーカーがなく、向こうのプレイヤーは返しの音をヘッドフォンで聞きながら演奏していた。モニタースピーカーからの返しの音を観客が聞かなくて済む、スピーカーの置くスペースを活用できるなどの利点があるとのこと。

さらに、キャスト・スタッフともに帰るのが非常に早く、契約、労働組合で厳密に守られていることが窺えた。

劇場名／公演名リスト

●HUDSON THEATRE（ハドソン シアター）／「BURN THIS（バーン ディス）」
●ATLANTIC THEATRE（アトランティック シアター）／「THE SECRET LIFE OF BEETS（ザ シークレット ライフ オブ ビーツ）」
●NEW WORLD STAGES（ニュー ワールド ステージズ）3／「ROCK OF AGES（ロック オブ エイジス）」
●IMPERIAL THEATRE（インペリアル シアター）／「AIN'T TOO PROUD（エイン'ト トゥー プラウド）」
●SHUBERT THEATRE（シューベルト シアター）／「TOKILL A MOCKINGBIRD（キル ア モッキンバード）」
●NEW WORLD STAGES（ニュー ワールド ステージズ）4／「THE PLAY THAT GOES WRONG（ザ プレイ ザット ゴーズ ワロング）」
●GREENWICH HOUSE（グリニッジ ハウス）THEATRE（シアター）／「BROADWAY BOUNTY HUNTER（ブロードウェイ バウンティ ハンター）」
●WALTER KERR THEATRE（ウォルター カー シアター）／「HADESTOWN（ヘイデス タウン）」
●WINTER GARDEN（ウィンター ガーデン）THEATRE（シアター）／「BEETLEJUICE（ビートルジュース）」
●PLAYWRIGHTS（プレイライツ）HORIZONS（ホライズンズ）MAIN STAGE（メイン ステージ）／「A STARANGE LOOP（アスト レンジ ループ）」
●MARQUIS THEATRE（マーキス シアター）／「TOOTSIE（トッツィー）」

二〇一九年度　海外研修参加者名

劇場名	氏名
新橋演舞場	古川鉄平
新橋演舞場	吉川修平
大阪松竹座	田原理恵子
大阪松竹座	小倉苑子
南座	中野里香
南座	齊藤ゆかり
シアタークリエ	馬場千晃
シアタークリエ	石川和音
明治座	赤俊哉
新歌舞伎座	野口貴嗣
新歌舞伎座	国本忠宏

二〇二〇年度　報告事項
総会・理事会議事録

公益社団法人日本演劇興行協会の総会、理事会を書面及びオンライン会議により随時開催した。

社員総会議事録（書面総会）

社員総会の決議があったものとみなされた日
二〇二〇年五月二八日
社員総会の決議があったものとみなされた事項の内容
決議事項
第一号議案　理事の選任の件
　山根成之及び松田和彦を理事に選任する。
第二号議案　議事録署名人選任の件
　代表理事大谷信義及び理事安孫子正を議事録署名人とする。

　二〇二〇年五月一五日、代表理事大谷信義が社員全員に対して右記社員総会の目的である右記事項について提案書を発し、当該提案につき、二〇二〇年五月二七日までに社員の全員から書面により同意の意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第五八条第一項に基づき、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなされた。

みなし決議に関する理事会議事録（書面理事会）

理事会の決議があったものとみなされた日
二〇二〇年六月九日
理事会の決議があったものとみなされた事項の内容
決議事項
第一号議案　会長(代表理事)及び常務理事選定の件
　二〇二〇年六月九日付けで代表理事大谷信義が理事及び代表理事を辞任するため会長(代表理事)に安孫子正を選定すること
　常務理事に山根成之を選定すること

　二〇二〇年五月二九日、会長(代表理事)大谷信義が理事及び監事の全員に対して、理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該提案につき二〇二〇年六月八日までに理事の全員から書面により同意の意思表示を、監事の全員から書面により異議が無いとの意思表示を得たので、本社団定款第三四条(一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九六条)に基づく理事会の決議の省略の方法により、当該提案を承認可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

みなし決議に関する理事会議事録（書面理事会）

理事会の決議ならびに報告があったものとみなされた日　二〇二〇年六月一五日
理事会の決議があったものとみなされた事項の内容
決議事項
第一号議案　二〇一九年度事業報告承認の件
第二号議案　二〇一九年度決算承認の件
第三号議案　決議の省略の方法による二〇二〇年度定時社員総会招集の件

　二〇二〇年六月九日、代表理事安孫子正が、理事の全員に対して上記理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該提案につき、二〇二〇年六月一五日、理事全員から書面により同意の意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。
　また、これと同時に理事会に報告すべき事項につき、代表理事安孫子正が理事及び監事の全員に対して通知をしたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九八条第一項に基づき、当該事項は理事会への報告を要しないものとする。

定時社員総会議事録（書面総会）

定時社員総会の決議があったものとみなされた日
二〇二〇年六月三〇日
定時社員総会の決議があったものとみなされた事項の内容
決議を省略する議案
第一号議案　二〇一九年度事業報告書承認の件
第二号議案　二〇一九年度決算承認の件
第三号議案　理事の任期満了に伴う改選の件
現理事の内左記一〇名を理事に再任する件

記

安孫子正、池田篤郎、川瀬昌弘、三田芳裕、貞刈厚仁、糟谷治男、宮崎敏明、森本哲夫、渡邊守章、坂巻政一郎、以上
第四号議案　議事録署名人選任の件
代表理事安孫子正及び理事池田篤郎を議事録署名人とする件

二〇二〇年六月一五日、代表理事 安孫子正が社員全員に対して右記定時社員総会の目的である右記事項について提案書を発し、当該提案につき、二〇二〇年六月三〇日までに社員の全員から書面により同意の意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第五八条第一項に基づき、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなされた。

みなし決議に関する理事会議事録（書面理事会）

理事会の決議があったものとみなされた日
二〇二〇年七月六日
理事会の決議があったものとみなされた事項の内容
決議事項
第一号議案　会長及び常務理事選定の件
会長安孫子正及び常務理事池田篤郎、常務理事川瀬昌弘を再任する件

二〇二〇年七月一日、代表理事安孫子正が、理事の全員に対して右記理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該提案につき、二〇二〇年七月六日、理事全員から書面により同意の意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

臨時理事会議事録（オンライン臨時理事会　Zoomシステム使用）

二〇二〇年七月九日(木)　午前一一時〇〇分　開会
定刻に至り、吉浦事務局長が本日の理事会は定款所定の定足数を満たし適法に成立した旨を告げた。
定款三三条に基づき、会長の安孫子正が議長を務める旨の説明が行われた。
議事の経過の要領及び結果
決議事項
第一号議案　二〇二〇年度事業計画見直しについて
議長から本議案について付議し、これを受けて吉浦事務局長から二〇二〇年度事業計画見直し案を説明、事業計画見直し案の提案が行われた。次いで、議長が本議案の承認を求めたところ、全員異議なく本案を承認可決した。
第二号議案　臨時総会招集について
二〇二〇年度事業計画見直し案を決議するため二〇二〇年度臨時総会招集について議長から本議案について付議した。これを受けて吉浦事務局長から二〇二〇年度臨時総会を定款一八条の決議の省略の方法により行うべく招集する件について議長が本議案の承認を求めたところ、全員異議なく本案を承認可決した。
報告事項
吉浦事務局長から次の報告があった。
一、書面にて決議済である二〇一九年度事業報告及び決算報告を口頭で説明を行い出席理事、監事の確認を受けた。
二、会長及び常務理事の職務執行状況において、新しく就任された理事の挨拶を行った。
（安孫子正、山根成之、松田和彦、貞刈厚仁）

臨時社員総会議事録（書面総会）

臨時社員総会の決議があったものとみなされた日
二〇二〇年七月二〇日
臨時社員総会の決議があったものとみなされた事項

決議を省略する議案

第一号議案　二〇二〇年度事業計画見直しについて

二〇二〇年七月一三日、代表理事 安孫子正が社員全員に対して上記臨時社員総会の目的である上記事項について提案書を発し、当該提案につき、二〇二〇年七月二〇日までに社員の全員から書面により同意の意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第五八条第一項に基づき、当該提案を可決する旨の臨時社員総会の決議があったものとみなされた。

二〇一九年度事業報告

二〇一九年度は定款四条に定められた事業を左記の通り実施いたしました。

本協会が実施している助成事業(演劇関係者への助成金交付、海外研修者に対する助成、脚本家養成に対する助成)、普及事業(半額観劇会、学生対象の演劇教室)及び調査事業等の公益事業活動は充実し、演劇の振興と普及を図るという事業目的は達成いたしましたが、二〇二〇年に確認されました新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部の事業が中止においこまれました。

Ⅰ. 助成事業

(一)演劇関係者への助成金交付

演劇興行および演劇製作に寄与した団体または個人の功績をたたえ、表彰する助成金交付は、内外の推薦を受け、常務理事における審議の結果、本年度は左記の三氏および一団体が承認されました。表彰式は二〇二〇年二月二六日(水)午後二時から、東京プリンスホテルに理事、監事、委員出席のもと、各表彰者に助成金と賞状を贈呈いたしました。

(受賞者)

①勝柴　次朗　殿
②山本　浩一　殿
③島　健　殿
④株式会社　宮本卯之助商店　殿

(二)海外研修への助成

本年度の海外研修は、内外より研修志望者を募り、従来通り各自が日程・行動を自由に設定し、滞在中は各自が責任行動する方法で実施いたしました。協会は往復の航空運賃、宿泊費、観劇チケット代金(上限一名一〇万円)を助成いたしました。

本年度は計一一名が参加し、九名がニューヨーク、二名がロンドンにおいて研修いたしました。今年度で二九回目となり、研修参加者の延べ人数は五五一名となりました。

二〇二〇年に確認されました新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定していました四名の研修参加が中止となりました。

(三)新人脚本家養成のための助成

今年度も引き続き「脚本家養成講座」を開講し、「初級コース」四名、「中級コース」一五名、「マスターコース」八名の計二七名が受講いたしました。通常の講義以外に、外部より講師を招いて特別講義を一回実施いたしました。

演劇の基盤を広げるためには優秀な脚本が求められます。演劇の脚本は一朝一夕に生まれるものではなく、長期的な養成が必要であります。継続して講座を維持してまいります。

二〇二〇年に確認されました新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、三月以降の講座は休講しております。

Ⅱ. 普及事業

(一)半額観劇会

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とで共催している半額観劇会は、低価格で質の高い舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業として、都民、府民、市民から幅広く支持され、演劇人口の裾野を広げております。

本年度は、加盟一〇劇場の協力を得て、東京地区四回、大阪地区六回、名古屋地区三回、福岡地区七回の合計二〇回を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、東京地区一回、大阪地区一回、名古屋地区の一部が中止となりました。

二〇二〇年に確認されました新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、政府からの公演自粛要請を受け公演中止したため、三月以降予定していました半額鑑賞会が中止となりました。

また、二〇二〇年四月時点、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益

財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とは、普及事業に関わる協定書に調印いたしました。
また、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とは、普及事業に関わる取り扱い手数料について覚書に調印いたしました。

(二)学生対象の演劇教室

加盟劇場の観劇と組合せ、学生を対象とした演劇教室を開催し、若年層へ演劇の普及を行いました。
「学生のためのミュージカル教室」を、二〇一九年八月に博多座(参加者一〇〇名)にて行いました。

Ⅲ. 会報の発行

協会の事業及び情報の周知を図るため、会報五六号、五七号を発行いたしました。会報は会員、賛助会員、所轄官庁、関係団体、演劇評論家、演劇記者、業界紙、舞台関係者等々に配布いたしました。

Ⅳ. 調査事業

ロンドン劇場協会が作成した加盟五二劇場で実施された一年を通じたボックス オフィスデータの調査結果とロンドン劇場協会提携会員の一七の準会員劇場の主要事項を内容としている「Ｂｏｘ Ｏｆｆｉｃｅ ＤａｔａＲｅｐｏｒｔ二〇一七」を入手し、演劇関係者の参考資料として翻訳、編集しました。
また、ぴあ株式会社が事業委託を受けて作成する「ライブエンターテインメント市場調査報告書」の調査・編集に協力しました。その報告書を入手し、加盟劇場と情報を共有いたしました。

報告事項

一. 一般社団法人 日本音楽著作権協会(ＪＡＳＲＡＣ)との音楽著作権料に関する交渉を継続して行う。

二. 理事の異動
二〇一九年四月　成毛由和退任
二〇二〇年三月　株式会社博多座代表取締役社長貞刈厚仁就任、相良直文退任

三. 委員の異動
二〇一九年九月　松竹　松本宗大、長尾敏和就任、安藤拓孝退任。

四. 委員会の開催
協会加盟劇場の支配人を委員とする委員会は、協会の事業活動方針を審議するために、二〇一九年度は六月、二〇二〇年二月の二回開催いたしました。

二〇二〇年度事業計画見直

Ⅰ. 助成事業

一. 二〇二〇年度助成金の交付につきまして本年確認されました新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、二月二六日政府からの自粛要請を受け加盟劇場を含む全ての劇場での興行を中止することになり、予定しておりました申請、審査が出来なくなりました。
よって本年度の助成金交付の事業につきまして中止することをお知らせいたします。

二. 二〇二〇年度海外研修の助成につきまして本年確認されました新型コロナウイルス感染症のため研修参加者の安全を考え、本年度の海外研修の事業を中止することをお知らせいたします。

三. 脚本家養成講座につきましては新型コロナウイルス感染症拡大防止のための三月以降休講しておりましたが七月より感染防止対策を行い再開しております。
昨年応募いただきました脚本募集につきまして二〇二〇年末に入選発表の予定でしたが本年確認されました新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定しておりました脚本審査が出来なくなり、入選発表を二〇二一年末に変更いたします。
尚、入選者には二〇二一年末頃に直接連絡いたします。
選考結果は、当協会ホームページ上にて発表いたします。
(URL http://www.enkokyo.or.jp/)

Ⅱ. 調査事業

調査事業につきましては本年の取り組は行わず、来年度に本年度分も含めて取り組むこととといたします。

公益社団法人 日本演劇興行協会名簿

二〇二〇年十一月現在

役員

会長	安孫子 正	松竹株式会社 代表取締役副社長
常務理事	池田 篤郎	東宝株式会社 常務取締役
常務理事	川瀬 昌弘	株式会社新歌舞伎座 取締役相談役
常務理事	山根 成之	松竹株式会社 専務取締役
理事	三田 芳裕	株式会社明治座 代表取締役社長
理事	宮崎 敏明	株式会社御園座 代表取締役社長
理事	貞刈 厚仁	株式会社博多座 代表取締役社長
理事	松田 和彦	東宝株式会社 演劇担当付
理事	糟谷 治男	公益財団法人都民劇場 理事長
理事	渡邉 守章	京都造形芸術大学舞台芸術センター
理事	森本 哲夫	一般社団法人放送セキュリティセンター
理事	坂巻政一郎	公益財団法人東京都歴史文化財団 副理事長
監事	迫本 栄二	公認会計士
監事	安藤 知史	弁護士

法人会員

株式会社イヤホンガイド
〒一〇四―〇〇六一 東京都中央区銀座三―一四―一 銀座三丁目ビル五F

有限会社大久保化学工業
〒一〇三―〇〇〇八 東京都中央区日本橋中洲四―一五

松竹株式会社
〒一〇四―八四二二 東京都中央区築地四―一―一

松竹衣裳株式会社
〒一〇四―〇〇四一 東京都中央区新富二―二―八

株式会社松竹ショウビズスタジオ
〒一〇四―八四二二 東京都中央区築地四―一―一 東劇ビル六階

株式会社タカサゴ
〒一七一―〇〇三一 東京都豊島区目白一―一―一

東宝株式会社
〒一〇〇―八四一五 東京都千代田区有楽町一―二―二

藤浪小道具株式会社
〒一一一―〇〇三二 東京都台東区浅草六―三―四

株式会社明治座
〒一〇三―〇〇〇七 東京都中央区日本橋浜町二―三一―一

株式会社WOWOWコミュニケーションズ
〒二二〇―八〇八〇 神奈川県横浜市西区みなとみらい四―四―五 横浜アイマークプレイス三階

株式会社御園座
〒四六〇―八四〇三 愛知県名古屋市中区栄一―六―一四

株式会社新歌舞伎座
〒五四三―〇〇〇一 大阪府大阪市天王寺区上本町六―五―一三

株式会社博多座
〒八一二―八六一五 福岡県福岡市博多区下川端町二―一

賛助会員

有限会社アトリエ・カオス
〒一五六―〇〇五六 東京都世田谷区八幡山一―一―一五

株式会社エス・ピー・ディ明治
〒一〇三―〇〇〇七 東京都中央区日本橋浜町二―三一―一 明治座アネックスビル

株式会社歌舞伎座
〒一〇四―〇〇六一 東京都中央区銀座四―一二―一五

歌舞伎座舞台株式会社
〒一〇四―〇〇六一 東京都中央区銀座七―一五―五 共同ビル四階

有限会社菊地商事
〒一六二―〇八三四 東京都新宿区北町四〇番地

熊谷印刷株式会社
〒一三五―〇〇五二　東京都江東区潮見二―三―四
サンピアンかわさき
〒二一〇―〇〇一一　神奈川県川崎市川崎区富士見二―五―二
新橋演舞場株式会社
〒一〇四―〇〇六一　東京都中央区銀座六―一八―二
成旺印刷株式会社
〒一〇一―〇〇四七　東京都千代田区内神田二―一四―六　神田アネックスビル
株式会社総合医学社
〒一〇一―〇〇六一　東京都千代田区三崎町一―一―四
東京帝国警備保障株式会社
〒一七〇―〇〇〇五　東京都豊島区南大塚三―四七―一　オーエスビル六F
株式会社東宝コスチューム
〒一五一―〇〇七三　東京都渋谷区笹塚三―二二―三
東宝ファシリティーズ株式会社
〒一〇〇―〇〇〇六　東京都千代田区有楽町一―七―一　有楽町電気ビル
東宝舞台株式会社
〒三三九―〇〇二五　埼玉県さいたま市岩槻区釣上新田一〇四八―一
TOHOリテール株式会社
〒一〇四―〇〇四二　東京都中央区入船二―一―一　住友入船ビル一F
株式会社トーショー
〒一八七―〇〇〇四　東京都小平市天神町三―一〇―三
杜陵印刷株式会社
〒一〇四―〇〇四五　東京都中央区築地二―三―四　築地第一長岡ビル九F
株式会社宝円堂
〒一〇四―〇〇四二　東京都中央区入船一―一―二二
株式会社宮澤商店
〒一一一―〇〇三二　東京都台東区浅草六―五―一
明治座舞台株式会社
〒一〇三―〇〇〇七　東京都中央区日本橋浜町二―三一―三
鵜飼興業株式会社
〒四六〇―〇〇〇八　愛知県名古屋市中区栄二―一―一　日土地名古屋ビル四F
有限会社藤井照明
〒四六四―〇〇七五　愛知県名古屋市千種区内山三―一―一五
株式会社山二製材所
〒四五四―〇〇一二　愛知県名古屋市中川区尾頭橋通一―二五
大阪府公衆浴場組合
〒五四三―〇〇七一　大阪府大阪市天王寺区生玉町九―三
有限会社関西照明設備研究所
〒五五二―〇〇〇七　大阪府大阪市港区弁天三―一五―九
三精テクノロジーズ株式会社
〒五三二―〇〇〇三　大阪府大阪市淀川区宮原四―三―二九
たつた舞台株式会社
〒五四二―〇〇七一　大阪府大阪市中央区道頓掘一―九―一九　大阪松竹座
学校法人野辺野学園
〒五一四―一一二一　三重県津市久居二ノ町一八五五

特別会員

公益財団法人都民劇場
〒一〇四―八〇七七　東京都中央区銀座五―一―七　数寄屋橋ビル六F

加盟劇場

歌舞伎座　松竹株式会社
〒一〇四―〇〇六一　東京都中央区銀座四―一二―一五
☎〇三―三五四五―六八〇〇

サンシャイン劇場　松竹株式会社
〒一七〇―八六三〇　東京都豊島区東池袋三―一―四　文化会舘
☎〇三―三九八七―五二八一

新橋演舞場　松竹株式会社
〒一〇四―〇〇六一　東京都中央区銀座六―一八―二
☎〇三―三五四一―二六〇〇

帝国劇場　東宝株式会社
〒一〇〇―〇〇〇五　東京都千代田区丸の内三―一―一
☎〇三―三二一三―七二二一

シアタークリエ　東宝株式会社
〒一〇〇―〇〇〇六　東京都千代田区有楽町一―二―一
☎〇三―三五九一―二四〇〇

明治座　株式会社明治座
〒一〇三―〇〇〇七　東京都中央区日本橋浜町二―三一―一
☎〇三―三六六〇―三九三九

御園座　株式会社御園座
〒四六〇―八四〇三　愛知県名古屋市中区栄一―六―一四
☎〇五二―二二二―八二〇一

新歌舞伎座　株式会社新歌舞伎座
〒五四三―〇〇〇一　大阪府大阪市天王寺区上本町六―五―一三
☎〇六―七七三〇―二一二一

大阪松竹座　松竹株式会社
〒五四二―〇〇七一　大阪府大阪市中央区道頓堀一―九―一九
☎〇六―六二一四―二三一一

南座　松竹株式会社
〒六〇五―〇〇七五　京都府京都市東山区四条大橋東詰
☎〇七五―五六一―一一五五

博多座　株式会社博多座
〒八一二―八六一五　福岡県福岡市博多区下川端町二―一
☎〇九二―二六三―五八五八

編集後記

昭和四十五年(一九七〇)二月一日任意団体として日本演劇興行協会発足。それぞれの興行会社がかかえる問題点を共通の問題として捉え、それぞれの会社の域を越えた体制づくりが必要との観点から誕生。昭和六十三年(一九八八)九月九日社団法人認可、平成二十七年(二〇一五)四月一日公益社団法人として認定。令和二年(二〇二〇)二月、任意団体として設立されてから五十年を向かえることが出来ました。

まさに新型コロナウイルスが広がり始めたその時でした。

本年二月二十六日に発せられた公演自粛要請は演劇界にとって公演中止という苦渋の決断を強いられることとなりました。しかし演劇界は未だ厳しい状況の中にあっても公演再開に向けて全力で取り組んでいます。

五十年を迎えた日本演劇興行協会も新たな会長の元、この難局を乗り越えるためにさらなる展開を進めて参ります。(Y)

取材・文　髙橋　涼子(会長インタビュー)
写　真　阿多　亨(会長インタビュー)
写　真　長野奈々子(助成金交付者)
印　刷　株式会社　宝円堂
編集・発行　公益社団法人　日本演劇興行協会
発行所　東京都中央区銀座一丁目二七―八セントラルビル
発行日　二〇二〇年十一月

Japan Association of Major Theaters